

# サキホコレを収穫

## 大曲農高生「味が楽しみ」



コンバインでサキホコレの稲刈りも体験した

大仙市大曲西根の大曲農業高校で農場で27日、同校生徒が県新品種米「サキホコレ」の稲刈りを行った。農業科学科の3年生10人がコンバインに乗り込み、こっぺを垂れた黄金色の稲を刈り取った。収穫したサキホコレは10月15日の学校祭で、おにぎりにして生徒や教職員で試食する予定だ。

◇ ◇  
同校では実習田約30アールでサキホコレを栽培している。苗は、3月に実習や研究用として県農業試験場から譲り受けた種のみを発芽させた。夏場には生徒が週1回程度、生育調査をし、手作業で除草をしたりして、稲刈りに備えていたという。



手刈りした稲を運ぶ生徒

生徒は田んぼの外側の稲を鎌で手刈りし、コンバインがスムーズに田んぼに入れよう整えた。教員がコンバインの動かし方の手本を見せた

後、交代で生徒が乗り込んだ。隣に座った教員から「稲の倒れている向きに気をつけて」なぞアドバイスを受けながら、約1時間ほどで約15アールの田んぼを全て刈り終えた。稲刈り後は、農場内の施設にある機械で乾燥やもみすりなどの工程も体験した。嵯峨陸生さん(18)は「初めてコンバインに乗ったが、稲を刈るのは意外とスムーズにできた。立派に育ってくれたので、味もおいしいことを期待している」と話した。

(佐藤和輝)